

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月11日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520664

研究課題名（和文） 維新政府による情報・宣伝活動の政治史的研究

研究課題名（英文） Research from a View of the Political History of the Intelligence and Propaganda Activities by the Meiji Restoration Government

研究代表者

箱石 大（HAKOISHI HIROSHI）

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：60251477

研究成果の概要（和文）：戊辰戦争期の維新政府が、諸藩・国内民衆・外国人に対して行なった情報・宣伝活動を政治史的観点から分析し、その成果を公表した。とくに諸藩関係では、触頭制という情報伝達制度の重要性を指摘し、民衆関係では、画像史料も活用しながら、新政府軍の宣伝歌であるトコトンヤレ節の流布状況を解明した。外国人関係では、海外所在の未紹介史料を収集し、維新政府を悩ませたプロイセンの反政府的活動に関する新事実を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research analyzed, from a political-history perspective, the intelligence and propaganda activities that were directed towards each *han* domain, the general population, and the non-Japanese residents in Japan by the Meiji Restoration government during the *Boshin* War. It also presented the results of this analysis. With regard to the *han* domains, the importance of the communication network called the *Furegashira* system was pointed out. Regarding the general population, this research shed light on the circulation of the Meiji Restoration government's military propaganda song, *Tokotonyare-bushi*, while also making use of visual historical materials. With respect to non-Japanese residents, historical materials from abroad that were yet to be introduced in Japan were collected and facts were revealed about the Prussian anti-government activities that had troubled the Restoration government.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史、情報史、明治維新、戊辰戦争

1. 研究開始当初の背景

近年の日本近世情報史研究の分野では、メディア史的観点ばかりでなく、情報が伝達・

蓄積される社会的諸関係へも着目する研究動向が顕著となり、情報ネットワークの解明に関心が集中してきた（高部淑子「日本近世

史研究における情報『歴史評論』第 630 号、2002 年)。幕末維新期の情報問題をめぐる諸研究においても同様の傾向にあり、豪農商層による情報収集活動に関する研究領域で多くの成果が発表され(これまでの研究成果については、保谷徹編『幕末維新論集第 10 巻・幕末維新と情報』吉川弘文館、2001 年、にまとめられた)、「風説留」という情報集の全国的な成立から、政治情報発信・需要主体としての豪農商層及びそのネットワークの広範な形成と「公論」世界の端緒的成立を指摘した優れた研究成果が現れるようになった。しかし、その一方で、情報統制や宣伝工作などを行なった権力側の問題に関しては、維新政府が江戸幕府に比して情報の問題を重視する政権であったとの大まかな見方が提示されるに留まり(宮地正人「風説留から見た幕末社会の特質」『思想』第 831 号、1993 年)、本研究が課題として掲げた維新政府の具体的な情報・宣伝活動に関する実証的な研究はさほど進展していない。

研究代表者の箱石も、上記のような問題意識に基づき、基盤研究(B)「近世後期における地域ネットワークの形成と展開 日田広瀬家を中心に」(研究代表者：横山伊徳、研究期間：2006-2008 年度)に研究分担者として参加し、維新期の地域ネットワークによる情報の伝達・収集・蓄積に関する研究に従事するなかで、情報を操作する維新政府側の研究の不足に直面し、その時点における見通しについては、小論「戊辰戦争と江戸の終焉—情報・宣伝戦としての戊辰戦争—」(『幕末ニッポン』角川春樹事務所、2007 年)で提示したものの、さらなる当該研究の必要性を痛感して、本研究計画を申請するに至った。

2. 研究の目的

慶応 4・明治元年(1868)1 月の鳥羽・伏見の戦いから、明治 2 年(1869)5 月の箱館戦争終結までの戊辰戦争期に限定し、維新政府が行なった情報・宣伝活動のうち、①諸藩に対する情報・宣伝活動とその影響、②民衆に対する情報・宣伝活動とその影響、③外国人に対する情報・宣伝活動とその影響、という最も重要な活動に関する基本史料を収集して政治史的観点から分析を加え、文字と画像が混在する多様な形態の史料を駆使した新たな政治史研究の方法論を開拓するとともに、その研究成果を公開することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 諸藩に対する情報・宣伝活動関係史料の収集と分析

維新政府による諸藩への情報伝達や宣伝活動に関しては、慶応 4 年 2 月の諸藩触頭制の創出が重要な画期となる。これは、幕藩制

下における江戸城の殿席に基づく政治情報の伝達制度ではなく、有力藩を触頭として管下諸藩を地域別に編制した新たな政治情報伝達制度のことである。本研究では、触頭となった代表的な藩の関係史料を収集・分析することとした。

(2) 民衆に対する情報・宣伝活動関係史料の収集と分析

戊辰戦争期には、『太政官日誌』などの官版日誌や新聞という新たなメディアを媒介として、国内政治や海外の情報が広範に伝えられる一方で、虚実入り混じった風聞・風説や、政治や社会を諷刺した替え唄の類いもかなり飛び交っており、民衆レベルでは後者の情報も相当影響力を持っていたのではないかと思われる。

本研究では、官版日誌や新聞に媒介された新しい情報世界の周縁に広がっていたであろう、口伝えの噂話やはやり唄などを媒介とする、より民衆的な情報世界に着目し、そこで展開された民衆を含む広範な身分階層の人々を対象とした維新政府による情報・宣伝工作について解明することを試みた。具体的には長州藩士の品川弥二郎が、新政府軍の宣伝のために作った「都風流トコトンヤレ節」という唄の流布問題を取り上げ、錦絵・摺物などの画像史料を含む関係史料の収集と分析を行なうこととした。

(3) 外国人に対する情報・宣伝活動関係史料の収集と分析

戊辰戦争期に奥羽越列藩同盟側へ荷担して暗躍し、維新政府を最も悩ませた駐日プロイセン代理公使フォン・ブランド及びシュネル兄弟らの反政府的活動を明らかにし、それへの維新政府による情報・宣伝戦的対応を研究の事例として取り上げた。

今回、戊辰戦争で戦死した会津藩士河原善左衛門政良の子孫で、現在スイス在住のユリコ・ヴィルト・カワラ氏より、長年にわたって調査・収集した欧米各国に所在する日本未紹介のシュネル兄弟関係史料(各国の文書館及び個人が所蔵する関係文書・文献のコピーや史料所在情報のメモなど 100 件以上にもものぼる膨大なデータ)の提供を受けたので、まずはこの新たに入手した海外所在史料の分析を中心として、未だ謎の多い彼らの実像解明に取り組むこととした。

4. 研究成果

(1) 諸藩に対する情報・宣伝活動関係史料の収集と分析

①金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵の加越能文庫を閲覧し、維新政府が創出した政治情報伝達制度である諸藩触頭制の下で触頭となった加賀藩(金沢藩)の関係史料を調

査・撮影した。そのうち、加賀藩の公議人らによって作成された「御書付等留」という史料が、明治元年 11～12 月における同藩の触頭としての活動を示す重要な史料であることを確認した。

②鳥取県立博物館所蔵の鳥取藩政資料を閲覧し、鳥取藩による戊辰戦争の届書作成に関する史料や、新政府軍内部における『太政官日誌』などの官版日誌を媒介とした維新政府の情報伝達に関する史料を撮影し、その内容を分析した。

③仙台市民図書館所蔵の郷土資料のうち、戊辰戦争期に仙台藩が作成・配布した木版刊行物を調査した。これは、奥羽越列藩同盟が軍事総督に推戴した輪王寺宮入道公現親王の令旨を布告するためのものであり、維新政府に抗戦する側の情報・宣伝活動を示す史料として重要であることを確認した。

(2) 民衆に対する情報・宣伝活動関係史料の収集と分析

①京都大学附属図書館所蔵の維新特別資料文庫（尊攘堂旧蔵資料）におけるトコトンヤレ節関係史料を調査し、同文庫に伝存している品川弥二郎が作成・配布したトコトンヤレ節歌詞摺物（墨摺版）の版木については、熟覧調査及びデジタル写真撮影を行なった。その結果、この版木は、昭和 3 年（1928）11 月の尊攘堂祭典記念として模刻されたものであり、このとき頒布された摺物複製品の印刷に利用され、さらに、昭和 9 年（1934）10 月の甲子七十年記念祭に際しても、頒布用摺物複製品の印刷に利用されていたことが判明した。

②香川大学図書館所蔵の神原文庫資料のうち、戊辰戦争期における諷刺替え唄の歌詞を収載した摺物を調査し、トコトンヤレ節だけでも数多くの替え唄が作られ、その歌詞が出版されていることを確認した。

③新潟県立佐渡高等学校同窓会所蔵の舟崎文庫史料のうち、佐渡奉行所の地役人であった山西敏弥の手記「幕末遭難記」を調査した結果、奥羽越列藩同盟が占領・管理していた新潟の花街・古町において、新政府軍の進攻前にもかかわらず、既にトコトンヤレ節が流行していたという事実が判明した。

④京都府京都市右京区京北地区（旧・京都府北桑田郡京北町）の山国隊軍楽保存会に、トコトンヤレ節を元唄とする「山国隊歌」が、現在まで伝承されていることを確認した。

(3) 外国人に対する情報・宣伝活動関係史料の収集と分析

①シュネル兄弟関係史料については、史料提供者であるヴィルト・カワラ氏宅を訪問して史料情報の追加調査を行なうとともに、研究協力者の福岡万里子氏（東京大学大学院）の

協力により解読・翻訳を進めた結果、従来まったく不明であったシュネル兄弟の家族構成、両親の出身地（＝ヘッセン選帝侯国の首都カッセル）とその経歴、来日以前における兄弟の経歴などが判明した。

②海外所在史料については、研究協力者のペーター・パンツァー氏（ボン大学名誉教授）・宮田奈々氏（ボン大学）の助力を得て、ドイツ・フライブルクの連邦軍事文書館所蔵文書を調査し、本研究に関連する幕末維新期日独関係史料をデジタル画像データで収集し、とくに戊辰戦争期におけるプロイセンと会津・庄内藩との秘密交渉に関する文書については翻刻・翻訳を行なった。

なお、これらの史料を分析した成果の一部は新聞で報道され、それを基にテレビ番組も制作・放送された。

③国内所在史料については、鶴岡市郷土資料館所蔵の阿部正己文庫史料のうち、シュネル兄弟・ゲルトナー兄弟関係の文献史料を調査した。

④日本学士院による日本関係未刊行史料調査事業（国際学士院連合関連事業）の一環として、日本学士院と東京大学史料編纂所が主催した「在外日本関係史料をめぐる国際研究集会」（2012 年 2 月 21 日開催）にて、研究協力者のペーター・パンツァー氏と宮田奈々氏により、プロイセンと会津・庄内藩との秘密交渉関係文書を含む、ドイツ・オーストリア所在日本関係史料についての調査・研究の成果が報告された。研究代表者の箱石も、プロイセン政府が当初の方針を転換し、会津・庄内藩との交渉開始を決定していたという新事実を追加報告した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

①箱石 大「戊辰戦争と佐倉藩—維新期における譜代藩の動向—」（『佐倉市史研究』、査読無、第 25 号、2012 年、5—20 頁）

②HAKOISHI HIROSHI（箱石 大）, Max von Brandt und die preußische Diplomatie in den letzten Tagen der Tokugawa-Zeit（原題：「戊辰戦争とマックス・フォン・ブランド」）, in: Ferne Gefährten: 150 Jahre deutsch-japanische Beziehungen（『遠来の友：日独修好 150 周年記念論文集』）, 査読無, Regensburg 2011, pp. 61-67

③箱石 大「幕末維新史と戊辰戦争」（『歴史評論』、査読無、第 735 号、2011 年、29—38 頁）

④箱石 大「戊辰戦争下における通信・交通路の治安状況—奥州道中杉戸宿で起きた黒羽藩士殺害事件—」（佐藤孝之編『古文書の語る地方史』天野出版工房、査読無、2010年、182—192頁）

⑤箱石 大「戊辰戦争史料論—戦状届書に関する考察を中心として—」（明治維新史学会編『明治維新史研究 9 明治維新と史料学』吉川弘文館、査読有、2010年、73—106頁）

〔学会発表〕（計3件）

①箱石 大「戊辰戦争と佐倉藩—維新时期における譜代藩の動向—」（佐倉の歴史講演会、2011年10月22日、佐倉市立美術館）

②箱石 大「戊辰戦争期の日本におけるプロイセンのイメージ」（上智大学国際教養学部・ドイツ東洋文化研究協会主催国際シンポジウム「日独関係史における相互認識：想像、イメージ、ステレオタイプ」、2010年12月4日、OAGハウス）

③箱石 大「戊辰戦争史料としての戦状届書に関する一考察」（第39回明治維新史学会大会、2009年6月13日、函館市中央図書館）

〔その他〕

報道関連情報

(1)新聞

①『福島民報』2011年2月8日朝刊：「幻の「会津藩・独同盟」 戊辰戦争新政府軍に対抗し工作 ビスマルクが却下 独文書館に史料保存」

②『朝日新聞』2011年2月7日朝刊：「維新时期の会津・庄内藩、外交に活路 敗者の歴史に新視点 顧みなかったビスマルク」

③『朝日新聞』2011年2月5日夕刊：「薩摩・長州 VS. 会津・庄内・プロイセン？ 両藩、ビスマルクあて提携持ちかけ」

(2)テレビ

①NHK・BSプレミアム「BS歴史館：発見！戊辰戦争 幻の東北列藩・プロイセン連合」（2011年7月1日放送、制作：テレビマンユニオン）

6. 研究組織

(1)研究代表者

箱石 大 (HAKOISHI HIROSHI)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：60251477

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
福岡 万里子 (FUKUOKA MARIKO)
東京大学・大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻博士課程

ペーター・パンツァー (PETER PANTZER)
ボン大学 (ドイツ)・名誉教授

宮田 奈々 (MIYATA NANA)
ボン大学 (ドイツ)